



小中あいさつ運動

先週の金曜日、小中合同のあいさつ運動を行いました。北小の昇降口付近に、小学校からは運営委員会の子どもたち、中学校からは北小の卒業生たちがあいさつ運動に参加してくれました。

いつもは、ボランティアであいさつや掃除をしている子どもたちと昇降口に立っていますが、委員会の小学生と中学生も一緒になると大人数になり、一見すると何事が行われているのかと見間違ふほどでした。

小中合同の取り組みは素晴らしいことだと思います。「あいさつとはどういうものか」、「あいさつ運動の目的は何か」など、毎年やっていることだから今年もしなきゃではなく、毎年、目的や方法などを考えてみるのもいいのではないかと感じました。



感染症対策

先週1週間の欠席者（風邪症状、発熱、感染症を含む）は、表のような状況でした。どこかの学年に集中しているのではなく、どの学年にも欠席者が出ている状況であり、今後も同様の状況が続くと考えられます。今週予定していた授業参観も欠席者の状況や熱中症のリスクを考慮し、中止とさせていただきます。

4日	33人
5日	35人
6日	35人
7日	35人
8日	36人

学校としては、5類に移行した後も、マスク着用は個人の判断としていますが、その他の感染症対策については、換気や手洗いなど基本的な感染症対策を継続しているところです。学校行事も少しずつ日常に戻している中、その時々状況を見ながら判断しています。

3年間、コロナにより学校生活が制限された子どもたち。安全を第一に考えながらも、一生に一度しかないこの時間を有意義なものになるよう、学校としても対応を考えていきたいと思ひます。

校長のひとこと

「大きな声であいさつしましょう。」学校では子どもたちにこんな指導をすることがあります。私自身も若い頃、同じ指導をしていました。最近、この指導は正しいのだろうかと思ふようになりました。大きな声を出せない子もいるし、大きな声にびっくりする子もいます。何でも一律にしなくてもいいのではないかと。そう考えると、あいさつ一つにしても、その指導は難しいと感じます。一番ぴんとくるのは、「気持ちのよいあいさつ」でしょうか。笑顔で相手に聞こえる声で、目を見てあいさつ。自分も相手も気持ちよく感じるあいさつを心がけていきたいと思ひます。